

# 第 1 回

## 全国果樹技術・経営コンクール

### 受賞者の概要

主 催 全国農業協同組合中央会  
全国農業協同組合連合会  
日本園芸農業協同組合連合会  
全国果樹研究連合会  
財団法人中央果実生産出荷安定基金協会

後 援 農 林 水 産 省  
全国新聞情報農業協同組合連合会

## 受賞者一覧

### 農林水産大臣賞

山梨県	加納岩果実農業協同組合
静岡県	後藤善一
広島県	農事組合法人 三次ピオーネ生産組合
熊本県	伊東山親嘉

### 農林水産省農産園芸局長賞

青森県	有限会社 せいの農園
山形県	山形おきたま農業協同組合南陽西洋梨部会 ラ・フランス共選グループ
愛知県	梅村幸雄
香川県	有限会社 マルキン
愛媛県	野本貢
福岡県	林公

### 全国農業協同組合中央会会長賞

北海道	森元治
愛媛県	宇和青果温室みかん協議会

### 全国農業協同組合連合会会長賞

岩手県	田中芳美
長崎県	田中芳弘

### 日本園芸農業協同組合連合会会長賞

岐阜県	糸貫町柿振興会
和歌山県	山口敏夫

### 全国果樹研究連合会会長賞

福島県	斎藤栄慶
長崎県	ことのうみ農業協同組合柑橘部会 長与部会基盤整備研究部

### 財団法人中央果実生産出荷安定基金協会理事長賞

青森県	相馬村りんご共同防除組合連絡協議会
神奈川県	土方俊一

## 農林水産大臣賞

### ○山梨県 加納岩果実農業協同組合

住所 山梨県山梨市下神内川193 代表者 矢崎 正彦

経営面積30ha、専業農家30戸で構成され、法人登記された非出資組合で、組合員は総合農協にも加入している。もも中心の経営を行い、昭和30年代から1市場に特化し出荷額は3.7億円をあげている。ももの品質の高位平準化をはかるため、全員が県認定の果実検査員の資格をとり、出荷全量の出検査を徹底して行う等により、市場側の評価は高く、県内の他産地産より3割程度高値で販売されている。

共同選果場、共同防除のためのスピードスプレー、予冷库等を何れも県内では他に先駆けて整備したほか研究ほ場を設置して統一的に新品種を導入しており、また、独自の品種（サマーエース、ふじいち）を育成する等新品種開発にも積極的に取り組んでいる。

さらに、ライ麦による草生栽培をベースにした有機質肥料の投入をはじめ減農薬の防除暦を独自に作成する等環境に考慮した栽培管理に努めている。

### ○静岡県 後藤 善一

住所 静岡県引佐郡三ヶ日町本坂555

温州みかん栽培面積8haは県内では有数の大規模経営であり、園地は交換分合等で1団地にまとめている。

品種は青島温州5.5ha、興津早生が2.5haと2品種に絞っていることから、摘果や収穫を一斉に行い労働の効率化を図っている。

平成2年より大苗改植を伴う基盤整備を実施し、現在園地の7割に及んでいる。園内の作業道も整備されており、温州みかん産地では最も早い時期にスピードスプレーを導入（平成2年）している。

これらの結果、薬剤散布、施肥、客土、資材の搬入から収穫したみかんの搬出までの一連の作業を機械化することにより、10a当たり作業時間は約140時間と全国平均の7割程度に省力化が図られている。

○広島県 農事組合法人 三次ピオーネ生産組合

住所 広島県三次市東酒屋町2044-1 代表者 西田 数馬

経営面積は35.6ha、21戸の農家から構成された農事組合法人であり、園地の栽培管理は各戸の責任分担制で実施されている。

適期に作業できるように、ピオーネ加温ハウス、ピオーネ簡易被覆、デラウエア簡易被覆、ベリーA簡易被覆等品種と作型を組み合わせ、出荷期間の拡大、作業労働の平準化を進めている。

また、ピオーネの無核化（種なし化）栽培に全国に先駆けて取り組み、昭和58年にその技術を確立したほかウイルスフリー苗木を積極的に導入し、現在までに7割を改植している。

出荷に際してはバーコードを用いて組合員の担当ほ場ごとの生産額を算出するとともに、病害果等の事故があった場合の対応が素早くできる等品質の管理を徹底するための体制を作っている。

現在では果物のギフト商材として県内では最高のブランドになっているが、市場出荷の初期には、ピオーネが品種として名が通っていなかったこともあり、組合員全員が卸売市場、デパート、量販店、専門小売店等へのPRを行う等販路開拓のための組織的な調査訪問活動にも取り組んできた。

○熊本県 伊東山 親嘉

住所 熊本県鹿本郡植木町上古閑45-1

経営面積3.1haで、基盤整備によりスピードプレーヤーを導入できる樹園地に改良した。栽培品目は露地及びハウスみかん、ハウスでこぼん、ハウスすもも、露地かきと多岐にわたっており、各品目ごとの栽培管理は家族で担当制を敷き各自の経営責任を明確にしている。

露地みかんは県の奨励品種である「豊福早生」、「肥のあけぼの」を他に先駆けて導入したほかすもも栽培においては、みつばちによる受粉作業の省力化を図るとともにハウス栽培にも積極的に取り組み、西日本では最大規模とされる当地域のハウスすもも産地の形成に尽力した。

このように立地条件に即した常緑、落葉の多種の果樹と作型の組み合わせにより、5～6月のハウスすももから翌年1～2月のハウスでこぼんまで、ほぼ周年的な果実の出荷が可能となり、労働の平準化と経営の安定化が図られている。

## 農林水産省農産園芸局長賞

○青森県 有限会社 せいの農園 代表者 清野俊博

住所 青森県弘前市大字下湯口字扇田104-1

経営面積9.8haのりんご専作経営で、品種構成は王林35%、ふじ29%、ジョナゴールド18%、陸奥8%、その他10%となっている。

現在全園を無袋栽培としているほかわい化栽培は60%、葉とらず栽培は80%で、こうした省力栽培と品種構成の適正化により、10a当たり労働時間は156時間と県平均の56%にまで省力化が図られている。

契約販売が70%（関東地域の百貨店50%、生協等20%）、宅配及び直売所が30%となっているが、法人化（平成7年）により、契約販売の相手先からの信用度は以前より増すことになった。

また、優良系統の育成に力を入れており、自園地で優良な枝変わりを選抜し、改植に利用している。

○山形県 山形おきたま農業協同組合 南陽西洋梨部会

ラ・フランス共選グループ 代表者 高橋武一

住所 山形県南陽市宮内864

現在部会員は56名（うち専業農家28戸）で西洋なしの栽培面積は11.3haである。

通常の立木栽培では品質や肥大にばらつきが出るため、棚仕立て栽培を導入し、現地に即した技術開発により安定的な結果と品質の向上、作業労働の省力化が図られている。

特に、施肥の適正化を目指し、地域内で食味を含めた優良園地の事例集を作成し、組合員全員のレベルアップを図っている。

また、ラ・フランスは熟期の判断が難しく、収穫後追熟して出荷するため、園地ごとに収穫適期の判定を行い、組合員は指定された適期の3日以内に収穫を終了し、冷蔵庫に搬入することとしている。

さらに、消費者のニーズに合わせた出荷形態を採用し、包装5kgケースのみでなく1個包みや2個入りケースの販売を行う等により販路を広げている。

○愛知県 梅村 幸雄

住所 愛知県豊田市乙部町前田23

経営面積2.7haの日本なし専作経営である。品種構成は早生の幸水、中生の豊水、晩生の新高、愛宕それぞれほぼ25%ずつの割合で収穫期間は8月から12月まで長期間に亘っている。また、機械化に積極的に取り組み、人工受粉機の活用により作業時間を従来の3分の1に短縮したほか、防蛾灯や防霜ファンも導入している。これらにより雇用は全く行わず家族労力（本人夫婦、後継者）のみで対応しており、かつ、1人当たりの年間総労働時間は1,800時間を下回っている。

経営管理にはパソコンを導入して、簿記や作業の記帳のみならず、生産費の試算や規模拡大のシュミレーションを行う等営農計画の樹立に役立てている。

非破壊糖度センサーつき選別機の導入と品質向上に努力し、特に大玉になる愛宕が猿投（さなげ）ジャンボなしとしてブランド化する等当地域が日本なしの特産地を形成する上で大きな役割を果たした。

○香川県 有限会社 マルキン 代表者 福家 茂

住所 香川県高松市中山町850

経営面積2.0ha、露地みかん、温室みかんを中心にびわを加えた果樹専作経営で平成7年に法人化した。

露地みかんは1年ごとに樹別に交互結実させる栽培手法を他に先駆けて導入した。このため、表年、裏年による生産量の不安定要因を解消し、省力的、計画的な園地管理が行えるようになった。また、高畝栽培により糖度を向上させるとともに3月までの貯蔵により高単価での販売と収穫労力の集中回避も可能となった。

温室みかんは加温開始を11月からとし、安定した生産が行える作型にして、びわと収穫時期が重ならないようにしている。

労働力は家族労力（本人夫婦、両親）のみであるが、以上により年間の総労働時間は1人当たり1500時間を下回っている。

圃場ごとに防除、摘果、収穫等家族内での分業体制が確立されており、責任の明確化と給与制による家族労働の正当な評価に努めている。

愛媛県 野本 貢

住所 愛媛県松山市吉藤町5-22-6

経営面積は4.5haで、うち宮内伊予柑が3.85haを占める。園地は8か所に分散しているものの、特に3m幅の作業道を園内に敷設し運搬車両の通行を円滑にする等昭和50年代から基盤整備に取り組み既に7園地は整備済みになっている。

また、昭和63年より多目的スプリンクラーを導入し(現在84%)、防除作業は適期一斉に極めて短時間で行えるようになった。

宮内伊予柑は大玉果の収益性が高いため、早期摘果を完全励行して玉太りを良くしていることから、秀品率は当農協管内の平均より1割程度上回っている。また、自園地に地域の栽培実証圃を設置し、産地化可能な新品種の導入と栽培方法の検討を行っている。

有機質肥料については畜産農家と契約し、牛ふんおがくず堆肥として60トンを毎年投入しており、また、平成9年からナギナタガヤによる草生栽培に取り組む、有機質の補給と除草剤散布の低減を図る等環境に配慮した農業を実践している。

○福岡県 林 公

住所 福岡県甘木市大字黒川3824

経営面積2.09haの日本なしの専作経営で幸水、豊水、新高、二十世紀がほぼ同じ割合である。

昭和45年にはスピードスプレーヤーを導入するなど早くから基盤整備を進めてきた。

特に日本なしの被覆栽培を行うに当たって、H型整枝法を県内で始めて取り入れ、栽培技術として確立した。また、有機物のたこつぼ施用や自生山野草の敷草利用等により地力増強に努めている。

また、防風・防鳥用のネットを害虫防除用に改良することにより殺虫剤使用回数を低減し、ネットが設置できない場所では、害虫の交信攪乱剤を使用する等省力的で、かつ環境に配慮した栽培管理を行っている。作業は家族労働が中心であるが、このような省力化を進めたことにより、年間総労働時間は2000時間を下回っている。

## 全国農業協同組合中央会会長賞

○北海道 森 元治

住所 北海道余市郡余市町登町653

りんご5.30ha、西洋なし0.80ha、醸造用ぶどう0.50haを主体とする果樹専作経営である。りんごは、つがる、ふじの他北海道で育成されたハックナインも導入しており、10a当たり収量は2.5トンと北海道の平均に比べると2倍近くになっている。おい性台木の導入は50%を超え、全園の無袋栽培を実施するとともに受粉にはマメコバチを利用、摘果は薬剤摘果を行う等省力化を進めている。労働力は家族3人と常雇1人、パート3~4人で、経営管理にはパソコンを使い簿記記帳を行っている。

○愛媛県 宇和青果温室みかん協議会 代表者 森 松実

住所 愛媛県北宇和郡吉田町大字立間2番耕地146

会員数は168戸で温室みかん面積は27.43haである。

品質向上を図るため、昭和53年から温室毎の品評会や優秀園の表彰により会員の意欲の向上に役立てている。また、組合独自に栽培指針を作成し毎年の研修会で徹底するほか、3年に1度必ず行う各温室の土壌・葉の成分分析により、味の均一化や生産の安定を図っている。

特に、温室施設の電気事故等災害を未然に防ぐため、平成4年から遠隔監視システムを導入し、生産の安定化を図るとともに、温度データにより会員の温室ごとに時期別の適正な管理に資している。

## 全国農業協同組合連合会会長賞

○岩手県 田中 芳美

住所 岩手県盛岡市黒川18-82

経営面積3haのリンゴ専作経営で、品種は早生のさんさから晩生のふじまで6品種を栽培している。おい化率は100%、全面積無袋栽培で、作業の効率化のため3m以下の低樹高としている。過剰着果しないよう、人工受粉の際の着果数の制限と薬剤摘果を徹底している。また、日光が果実に直接当たるよう夏の徒長枝切りも励行している。家族2人のほかパートを雇用しているが、このような省力化により10a当たり労働時間は183時間となっている。パソコンによる農業日誌と経営簿記を分析し、目標収益に見合う生産コストの低減化を図っている。



○長崎県 田中 芳弘

住所 長崎県佐世保市針尾東町2031

経営面積5.9ha、うち温州みかんは4.55haで、早生（興津・原口）を主体に極早生（日南1号）、普通（大津4号）を組み合わせている。

温州みかんのネット栽培を平成4年から地域に先駆けて実施するとともにマルチ栽培においても多孔質シートを積極的に導入した。

早くから園地整備に取組み、園内道整備率は90%以上でスピードスプレー防除が可能となっている。家族労働3人の他にパートを雇用しており10a当たり労働時間は139時間と県平均の80%となっている。

また、地元で選抜された早生優良系統のさせぼ温州の増殖に努めており、苗木の大量育成を行い、今後の経営の柱としていく方針である。

## 日本園芸農業協同組合連合会会長賞

○岐阜県 糸貫町柿振興会 代表者 加藤泰一

住所 岐阜県本巣郡糸貫町見延441

当振興会は町内のかき選果場が1か所に統合されたのを機会に378戸、栽培面積212haで発足した。

大玉かきの需要に応えるため、振興会の下部機関として生産共販推進委員会を設置し、各会員の圃場について、年2回、着果量を制限するための摘果検査と受光条件改善のための間伐検査を行っている。

また、病害虫防除にはスピードスプレー組合を設立し、かき栽培面積の約6割に当たる120haの作業受託を行っている。

さらに、整枝、剪定については、剪定班を組織し、作業請負により各会員の間伐の徹底と整枝の均一化を図っている。

○和歌山県 山口 敏夫

住所 和歌山県有田市初島町里373

経営面積は2.01haで、普通温州を中心に早生と晩柑類を組み合わせている。園内道は各種の補助事業により整備率は80%に達し、スプリンクラーは全園地に完備している。薬剤の散布効果を高めるため樹形を改造し、また、高品質みかんの生産のためマルチ栽培も導入している。

4人の家族労働力が主体で、雇用は収穫期のみ留めている。

なお、後継者は就農と同時にパソコンを導入し、生産資材から販売に至るまでのデータを経営改善に活用している。

## 全国果樹研究連合会会長賞

○福島県 齋藤 栄慶

住所 福島県伊達郡伊達町大字伏黒字沖前23

経営面積3.45ha、うち、もも1.69ha、りんご0.78ha、西洋なし0.98haの果樹専作経営で、客土による水田転換で規模拡大してきた。経営の中心をりんごからももに移し、更に、西洋なしのウエイトを高めて多品目栽培による経営の安定化に努めている。

その際、りんごのわい化技術を応用して、ももに主幹形仕立てを取り入れ省力化を図るとともに、西洋なしにもわい性台木による主幹形仕立てを採用し、早期多収化を図っている。

また、複合性フェロモン剤による減農薬防除に取り組んでいる。労働力は家族3人を中心に、作業が集中する摘果、袋掛け・除袋、収穫等の時期に、町のシルバー人材センターと契約してパートを確保している。

○長崎県 ことのうみ農業協同組合柑橘部会長与部会基盤整備研究部

代表者 佐藤 司

住所 長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷411-6

長与町のみかん園は傾斜度20°以上がほとんどで、労働過重が問題とされてきた。これまで、農家個々に基盤整備が実施されてきたが、施工方法の難度や災害対策等で進捗が遅れていた。このため、基盤整備を円滑に進めるため農協に基盤整備研究部が設置された。

当研究部は現在27名の会員で運営され、各農家からの意見、要望をもとに園地改造を円滑、安全に行うためのマニュアルとして、平成8年には既存園の状態を生かして作業道を設置するタイプを、翌年には改植を伴う園地改良型基盤整備タイプを作成した。これらの結果、町内の基盤整備は172haとみかん園面積の40%に達し、園内道の敷設により、マルチ栽培、適期の防除、肥料の葉面散布、収穫作業がより効率的に行えるようになった。

## 財団法人中央果実生産出荷安定基金協会理事長賞

○青森県 相馬村りんご共同防除組合連絡協議会 代表者 沢田 一

住所 青森県中津軽郡相馬村大字五所字野沢23-1

211戸が参加した協議会で共同防除面積は286haとなっている。

独自の防除暦を作成するとともに、発生予察の励行により散布回数の減少に努めている。防除に留まらず各種の共同活動を進めており、例えば、土作りについては、村内に畜産農家がないためパーク堆肥等の有機質肥料を一括購入し、会員に配布する体制を整えている。

また、平成3年の台風19号により大きな被害を受けたが、当協議会が中心となり改植事業を県内他産地に先駆けて取組んだ。特におい化栽培はそれまで全園地の5%にすぎなかったものが現在は15%にも拡大し、省力化に貢献している。

なお、稲作で村全体を一本化した集団組織が作られた結果、余剰労働力が生じたので、これを果樹栽培に振り向けることにより労働力不足に対処できるようになった。

○神奈川県 土方 俊一

住所 神奈川県中郡大磯町虫窪602

経営面積は露地みかん1.55ha、ハウスみかん0.50haである。主力はハウスみかんで早期加温型の栽培により、収穫は6月から始めて8月上旬には終了する。夏枝に結果させるので、収穫後に肥料の葉面散布を行い樹勢を回復させるとともに強い剪定を行い結果枝を一斉大量に確保する技術を確立した。なお、ハウスみかんは全量農協共選共販体制となっている。

一方、露地みかんは極力省力栽培化を進めており、摘果剤を含め薬剤散布は年5回程度としている。その販売については、観光みかん狩園と直売がほとんどである。チラシを作り、近隣の団地、幼稚園等に配布する等のPRの努力を重ねており、毎年3,000人以上の来客を集めている。最近ではインターネットを利用した顧客開拓も進めている。